



“中玉”トマト

これまでトマトと言えば大玉とミニトマトの2種類に限られていましたが、最近これらの中間サイズ、中玉（ミディー）トマトが注目をあびています。中玉トマトは40g程度、ちょうどゴルフボールくらいの大きさです。品質に優れ、房のまま販売できる品種もあることから、新たな需要の拡大や収穫の省力化が期待できるトマトです。

ラクスペアの^{ちびょう}稚苗育苗による秋切り栽培の安定化

花き科

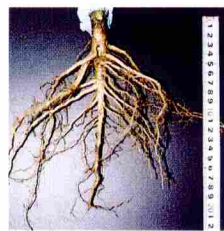
ラクスペアの秋切り栽培では、高温期の播種・育苗による苗質不良及び定植時の植え痛みによる欠株や早期抽台が多発しやすく、収量・品質が不安定です。花き科では直根性品目であるラクスペアの特徴を活かし、**根鉢形成前の稚苗を定植**することで、秋切り栽培における安定生産に寄与することを考えました。今回の試験では、根鉢形成前に定植するために生じる根崩れを防止するため、**寒天で育苗培土を固め、稚苗を簡単・確実に定植する画期的な方法を確立**しました。

◎(易・良)～○～□(慣行)～△～×(難・不良)

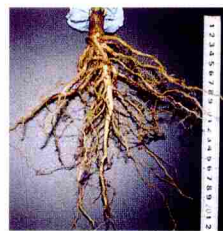
試験結果の まとめ	作業性							育苗資材 (トレイ・種子・ 培土・寒天)		
	育苗培 土調製	播種		育苗 管理	間引	定植	生育初期 管理の難易		収量	品質
慣行 (288穴セル成型苗)	□	□	□	□	□	□	□	□	□	2.37円/本
直播	無し	△	△	無し	△	無し	×	◎	◎	2.54円/本
稚苗(1.5%寒天、 406穴セル成型苗)	△	□	□	◎	□	○	◎	◎	◎	2.25円/本



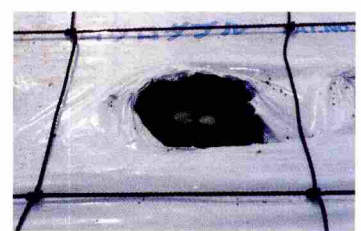
①慣行育苗



②直播



③稚苗育苗



▲ 定植直後の稚苗

▲ 採花時の根域の様子

赤肉メロン新品種／メロンえそ斑点病抵抗性台木新品種

野菜科

赤肉メロンの新品種「空知交11号」

優れた着果性と、うどんこ病、つる割病(レース0、レース2)抵抗性で、栽培しやすい安定多収品種です。また、果実肥大性に優れ、最近他の品種で問題となっている高温期における糖度も安定していて、果肉が厚く中心部の空洞が少なく、味はクセがなくさわやかです。収穫後4～5日で食べ頃となり、日持ちも良好です。



▲ 「空知交11号」



▲ 「ルピアレッド」

メロンえそ斑点病抵抗性台木「空知台交3号」

最近問題となっているメロンえそ斑点病にたいして強い抵抗性があります。台木として用いることで、根からのウイルスの侵入を防ぎます。生育は安定しており、穂木の果実品質を落とさない優れた台木特性を有します。特に、生育後半に「バテる」ことがないので、安心して使用できます。



▲ 「空知台交3号」:病徴はみられない。



▲ 抵抗性を持たない品種:多数の病斑が認められる。

メロンえそ斑点病の接種検定

ごぼうくろすじ黒条病の防除法

病虫害科

ゴボウ黒条病は北海道で古くから発生している病害で、葉や葉柄に黒色で条状の病斑が形成されます(写真)。本病に対する防除対策は確立されていないため、病原菌の同定とその発生生態、被害の解析および農薬を使った防除法について取り組みました。

病原菌は同定した結果、イテルソニリア・パープレクサンスという菌種です。この病気の発生しやすい条件は、葉の感受性(かかりやすさ)は若い葉ほど高く、温度条件は10~20℃、湿度条件は95%以上、葉の濡れ時間では24~36時間でした。

本病の発生はゴボウの収量に大きく影響します。発病度で50を越えると、2割程度の減収が明らかになりました。

本病に効果の高い薬剤を探索したところ、フルアジナム水和剤およびテブコナゾールフロアブルが最も高く、散布時期は初発直後で最も効果が高いです(表参照)。フルアジナム水和剤は本病に対する農薬登録があります。

以上の結果から、黒条病に対する効果的な防除対策は、畝間が葉で覆われる時期から本病の発生に注意し、本病の発生が確認されたら、すみやかにフルアジナム水和剤を10日間隔で2回程度散布する方法です。

散布開始時期と発病との関係

散布開始時期	散布回数	発病度	枯死・折れ率%
全期間	4	18.2	0.4
初発前	2	31.8	5.6
初発直後	2	24.2	1.8
折れ始め	2	51.5	18.5
無散布	-	60.0	32.7



アスパラガスりっけいのハウス立茎栽培法

園芸環境科

美唄市で先行導入されているアスパラガスのハウス立茎栽培法の改善策について、技術体系化チームとして、空知中央地区農業改良普及センターとともに検討を行いました。現行栽培法は地元が佐賀県から導入し、経験的に実施している方法で、最適な栽培条件について不明な点が多くあります。

今回は、現地農家で試験を行い立茎本数とかん水について、次の結果が得られました。

年間総収量を考えた立茎本数は、現行より少ない株当たり3~4本(6.7~8.9本/m²)を目安とすることが適当であり、またかん水点は、pF2.0とすることが望ましいと判断されました。

立茎栽培法に関しては、今後とも試験を継続し、検討を行います。



▲ 全体の生育状況

▲ アスパラガスの若茎(夏芽)

「かすみそう 多茎仕立て技術の実証による産地支援」

2001年度は、実証ほやセミナーをとおしての新技術の理解や習得、継続出荷体系の検討、市場性調査と経済性の検討など、技術の体系化に向けて、総合的に取り組みました。



▲ 研究職員による実証ほでの実技研修

露地で直はん栽培する草花紹介



ガウラ
8月中旬開花 90~120cm



のげいとう「シャロン」
8月中旬開花 100~130cm



サルビア「ビクトリアブルー」
8月下旬開花 50~60cm



ルドベキア「ゴルディロック」
8月下旬開花 50~70cm



ユーホルピア「氷河」
8月下旬開花 80~130cm



スカビオサ「コーカシカ・
トールダブル」
9月上旬開花 40~110cm

花・野菜新技術セミナー2002

2月26日滝川市文化センターにおいて、「花・野菜新技術セミナー2002」を開催しました。全道各地より、生産者、JA、地域農業技術センター、農業高校などから210名の参加をいただき、研究員、専門技術員が当センターをはじめ道立農試で開発した花き・野菜に関する新技術（品種）を紹介しました。



▲ 会場を埋めた参加者

野菜ベーシックセミナー(1/28~2/1)

野菜づくりをめざす新規参入者支援のため、北海道農業担い手育成センターの協力を得て、初めて開催しました。研究員、専門技術員及び農業改良普及員からの「土壌肥料」、「病虫害」及び「野菜栽培技術」に関する講義、道農政部麻田次長の講話、全体討論、意見交換など、受講された皆さんと講師陣の熱気でおおいにもりあがりました。



▲ 全道各地から29名が受講しました

北海道立 花・野菜技術センター

〒073-0026 北海道滝川市東滝川735番地
Tel 0125-28-2800 FAX 0125-28-2299

www.agri.pref.hokkaido.jp/hanayasai/center.htm

E-mail hana_yasai@agri.pref.hokkaido.jp